

11月の主なヒヤリハット・破損

11月のヒヤリハット・破損の報告数 27 件のうち 5 件を報告

1	使用機械・工具	ボール盤No.4	破 損	なし	危険度/発生頻度	大/少
	発生状況	ボール盤No.4 で鋼材の箱をドリルφ13 で加工している際、バイスを手で押さえていただけだったため加工中にバイスから手を離れた時にバイスが飛んだ				
	原因	<ul style="list-style-type: none"> ● バイスをきちんとした方法で固定していなかった ● ドリルが部材に食い込み、力がかかった 				
	再発予防	<ul style="list-style-type: none"> ● バイスを使用するときはボルトでしっかり固定する ● 無理な力がかからないよう少しずつ切削する 				
	一言	小径ドリルでも部材に食い込みことで回転する力が加わります。手で部材を押さえるだけでは危険なのでバイスなどでしっかり固定してから加工を行なって下さい				
2	使用機械・工具	往復鋸盤	破 損	鋸刃	危険度/発生頻度	中/少
	発生状況	往復鋸盤で S45C φ8 の丸棒を固定して切断していた所、部材が振動し、鋸刃に横方向の力が加わったため鋸刃が割れた				
	原因	<ul style="list-style-type: none"> ● 部材が振動したため鋸刃が捻れた ● 部材の固定が不十分であった 				
	再発予防	<ul style="list-style-type: none"> ● 部材の径が小さいものはロータリーバンドソーを使用する ● 部材の固定をしっかりと行う 				
	一言	部材の固定方法が不十分であり、鋸刃に捻れが生じたため鋸刃が割れました。加工を始める前に部材の固定方法を見直し、問題がないことを確認してから加工を始めて下さい。				
3	使用機械・工具	フライス盤 No.3	破 損	センタードリル φ3	危険度/発生頻度	小/中
	発生状況	フライス盤 No.3 でアルミ板 t1.5×90×70 [mm] を加工中、穴を開ける位置がまめジャッキの真上だったのに気づかず加工を続けたためまめジャッキとセンタードリルが接触しセンタードリルが破損した				
	原因	<ul style="list-style-type: none"> ● 加工を始める前に加工物の固定方法を再確認しなかった ● 穴あけ加工にフライス盤を使用した 				
	再発予防	<ul style="list-style-type: none"> ● 部材を固定する際に加工箇所と固定具の位置を確認しておく ● 精度が必要ない穴あけ加工の場合はボール盤を使用する 				
	一言	部材を貫通させる加工を行うときは固定する際に加工箇所周辺に気を配る必要があります。加工を始める前に、加工位置に正直台やバイスが当たっていないかどうか確認して下さい。				
4	使用機械・工具	強力直立ボール盤No.8	破 損	正直台	危険度/発生頻度	小/中
	発生状況	強力直立ボール盤 No.8 でヒートシンクをバイスで固定しドリルを回転数 240 [min ⁻¹] で加工を行っていた所、部材を貫通したドリルが正直台に接触し、正直台が傷ついた				
	原因	<ul style="list-style-type: none"> ● 部材に穴を開ける位置の下に正直台をおいて加工した ● 作業を始める前に固定方法を確認しなかった 				
	再発予防	<ul style="list-style-type: none"> ● 作業を始める前に固定方法を確認する ● 加工箇所周辺を確認してから加工を行う 				
	一言	加工を始める前に、加工箇所周辺の確認をしてください。加工箇所にバイスや正直台が接触している場合は固定方法を見なおす必要があります。				
5	使用機械・工具	フライス盤 No.2	破 損	ドリルφ2.5	危険度/発生頻度	中/中
	発生状況	フライス盤 No.2 でアルミの板材 t5×50×24 [mm] を正直台 2 枚を使用してバイスに固定してドリルφ2.5 で加工していた際、ドリルを板材から抜こうとしたときにドリルが折れた				
	原因	<ul style="list-style-type: none"> ● 送り速度が速かった ● 切削屑の排出を怠った 				
	再発予防	<ul style="list-style-type: none"> ● 作業前に送り速度などの数値を確認する ● 精度が必要ない穴あけ加工をする場合はボール盤を使用する 				
	一言	フライス盤でドリル加工をすると部材を加工する感触が伝わらないため通常より早い切削速度で加工してしまいがちです。精度が必要ない穴あけ加工であればボール盤を使用して下さい。				

